

三宅島の現状（その４６）

平成15年1月10日
現地災害対策本部

三宅島の皆様 新年明けましておめでとうございます。

元旦の三宅島は、大晦日の夜から小雨が降り、初日の出を拝むことができませんでした。現地本部員全員で富賀神社に初詣に行きました。ガスで枯れ、風で折られた枝が雨の参道に散らばり、風の音しか聞こえない境内は物寂しいものがありました。全島民の「今年こそは」の願いを心をこめて伝えてきました。

今年も三宅島の復旧復興が円滑に進むよう現地本部一同一生懸命頑張りますのでよろしくお願いたします。

【気象及び火山活動の状況】 12月27日～1月9日

この期間、12月27日～30日は冬型の気圧配置と移動性高気圧に覆われたため、晴れの天気が続きましたが、28日には弱い気圧の谷の通過により坪田で17.5ミリの日降水量を観測しました。31日～1月4日は低気圧の通過により、1日坪田10.0ミリの日降水量、3日～4日は2日間の合計雨量で坪田71.0ミリ、伊豆69.0ミリ、阿古54.5ミリ、神着29.0ミリを観測しました。5日～7日は冬型の気圧配置と移動性高気圧に覆われたため、晴れの天気が続きましたが、8日～9日は高気圧が北に偏って張り出したためと、弱い気圧の谷の通過により雲の多い天気となりました。

また、12月27日には雄山の冠雪が観測されました。

火山の活動状況は、この期間体を感じる地震は観測されませんでした。噴煙の高さは、28日には火口上800m、8日には700mの白色の噴煙が上がっているのが観測されました。火山ガス（SO₂）の放出量調査は9日に海上保安庁の協力により実施し、約4,100トン/日を観測しました。

島内のガス濃度（SO₂）は、28日三池で2.1ppm、30日村役場で3.2ppm、三宅島空港で2.7ppm、3日阿古船待で2.5ppm、8日薄木で2.5ppmを観測しました（東京都環境局観測）。

【東京～八丈島定期便の三宅島寄港と災害復旧作業の再開】

1月6日に2年4ヶ月ぶりに定期便の三宅島寄港が再開されました。当日は、風はそれほどではありませんでしたが、一時は三池棧橋駐車場で3PPMの二酸化硫黄濃度を記録するなど着岸が危ぶまれました。が、棧橋ではガスが無く、無事に着岸できました。帰島への一步を踏み出した感じです。

この直行便に乗って、お正月休みを終えた災害対策関係者が続々と三宅島に入り、7日には328名、9日には342名の防災関係者が下船しました。1月10日現在には島の滞在者は635名となり、復旧作業がほぼフル稼働しています。

【就労情報】

村役場では求人情報を下記のホームページに掲載するとともに、住民情報ネットワーク（島民連絡会）42ヶ所の連絡所にも送付しております。仕事を探している方はもよりの連絡所でご覧下さい。また、就職についての相談は三宅村村民課避難対策係（代表03-5321-1111内線45-651）にご連絡ください。なお、直近の情報はホームページ「三宅島を離れた村民のみなさまへ」をご覧ください。

(アドレス <http://www.miyakemura.com>) (問い合わせ先) 三宅支庁総務課行政係 電話：03-5320-7854

屋外仮設電源(コンセント盤)の設置について

平成12年の三宅島噴火災害による島外避難のため、各家庭へ供給していた電力については、現在切断されていますが、東京電力のご協力により送電準備作業として各戸メーターまでの引込み線を点検・補修しているところです。

家屋内への送電については、配線設備等の安全確認が出来ていないこと及び漏電等による火災事故等の発生を防ぐためにも現段階では困難な状況にあります。

三宅村では、一時帰宅の際に電気の使用を可能にするため、屋外（電気メーター付近）に仮設電源を設置したいと考えています。これにより家電製品の点検や掃除機等の使用も出来るようになります。ただし、家屋内への送電はしないことから既存設備のコンセントや照明等については使用できません。仮設電源はブレーカー付きの防水型です。コンセントについては通常の形状と異なりますので、専用の延長コードを別に用意します。

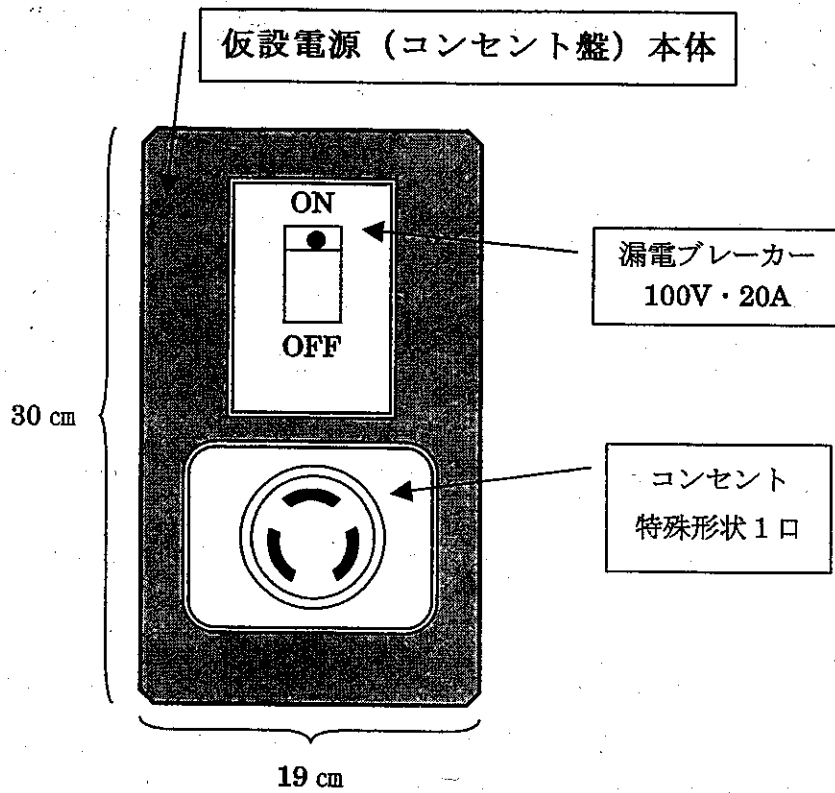
この仮設電源の設置に係る取り付け費用及び使用した電気料金は無料です。

なお、仮設電源の設置は、家屋1軒につき1個とします。(居宅を原則としますので、倉庫や作業所等への設置は出来ません。)

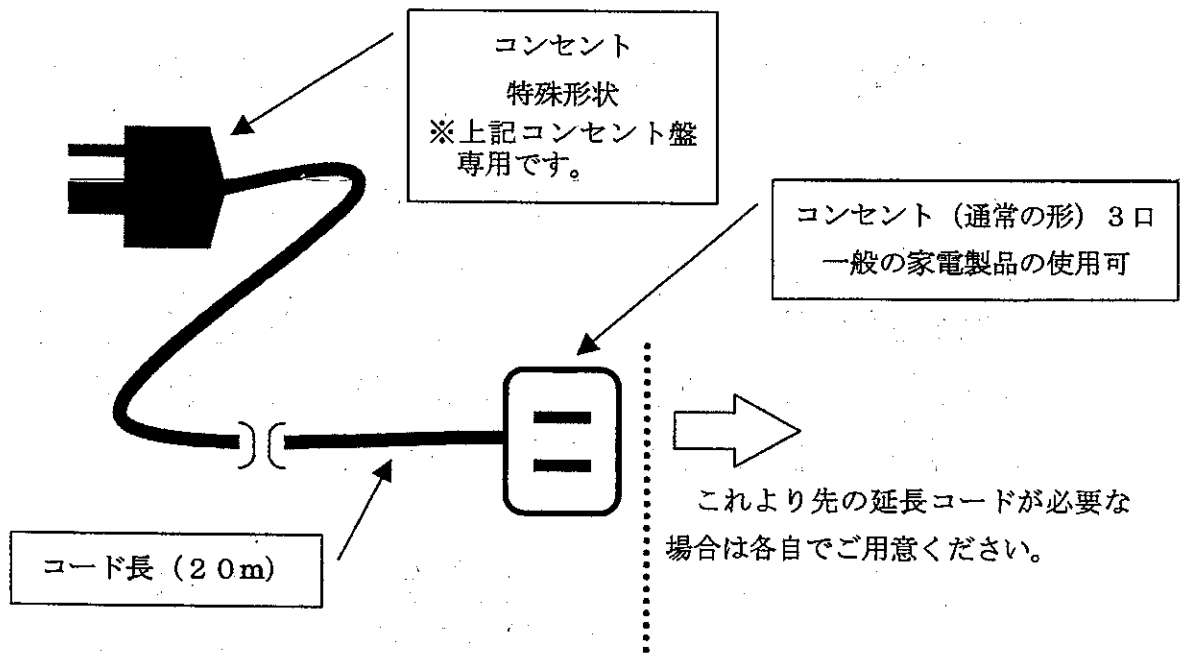
仮設電源の設置については、別紙（屋外仮設電源設置申請書）に必要な事項を記入のうえ、封書又はFAXにて申請してください。（お手数ですが、封筒及び切手は各自でご負担ください。）

問合せ先及び申請書送付先

〒163-8001
東京都新宿区西新宿2-8-1 東京都庁内
三宅村新宿総合事務所
災害復興室復興調整担当課
TEL 03-5320-7825
FAX 03-5388-1603



※上記のコンセント盤を電気メーターの近くに取り付けます。



※上記の専用延長コードは4月以降の帰宅事業参加時に貸し出します。

平成15年 1月10日発行

平成15年1月10日発行
会報 第82号

会員数 412名
男性 168名
女性 244名

シルバー



みやげ

編集・発行
社団法人三宅村シルバー人材センター
東京都千代田区飯田橋3-10-3
シニアワーク東京2階
TEL; 03-3239-4343
FAX; 03-3512-3477



初秋のことでしたが、確か平成九年大石氏のアイデアで正月飾りのしめ縄づくりを思いつき、会員の中心に四人の経験者

新年明けましておめでとうございませう。ふるさとを離れて三度目のお正月、如何お過ごしでしたか。さぞかし仮住まいのやるせなさに望郷の念ひとしおだったと存じます。島という限られた地域社会の中では、地域の特性を生かした独自事業の開発は極めて困難で、島しょ地区シルバーの共通の悩みとなっております。そんななかで、確か平成九年

のしめ縄づくりを思いつき、会員の中心に四人の経験者の中に四人の経験者... 腕試しに... と勤福会館で島内各地区伝統のしめ飾りの発表会を開催したのも、今は懐かしい思い出となつてしまいましたが、それ以来、独自事業として産業祭には当センターのコーナーを設けていただき、写真やビデオで事業を紹介したり、島内各地区のしめ縄づくりの実演は大変好評で予約も殺到し、材料のワラが手に入る心配するほどの人気ぶりが今でもフツと目に浮かんで参ります。

しめ飾り

会長 平松尚志

と復興の門出に華を添えることができたなら、どんなに素晴らしいことではないでしょうか。寒さ厳しい折、皆さまには風邪など召さぬよう十分ご留意され、益々のご活躍を祈念申し上げます。

事項は①帰島の手順に関するこ

十二月八日付け東京七島新聞は、「三宅島全島民帰島プロセス作成検討会」の設置について次のように報じています。「三宅村は、避難生活が長期化する中避難島民の帰島に備えて住民の安全を第一とし、円滑で効率的な帰島および生活再開を実現するための諸条件の整備を検討するため検討会を設置し、その第一回会議が十一月二十九日、都庁で開かれた。検討するこ



2002年の漢字は「帰」

「帰」を願ってとの声が多かったという。私たち三宅島民も島を離れてこの二年間「本格帰島」を願いながら慣れない都会生活を耐

★火山ガスの放出量減少
火山噴火予知連絡会は、十月十五日次のような統一見解を発表しました。「山頂火口から二酸化硫黄を多量に含む火山ガスが放出され続けているが、その量は減少している。放出量も最近数ヶ月では

謹んで新年のお慶びを申し上げます

昨年暮れ、日本漢字能力検定協会が公募で選ぶ「今年の漢字」に「帰」が最も多い得票を得て、二〇〇二年の世相を表す漢字に選ばれました。左の写真

（提供・毎日新聞社）は、京都清水寺の森清範貫主（かんす）が特大の和紙に豪快な筆さばきで揮毫（きごう）しているところ。選んだ理由は、北朝鮮から帰国した拉致被害者の「永住帰国」を願ってとの声が多かったとい

えしのいできましたが、昨秋ごろからいくつか明るい話題も聞かれるようになってきました。霧の向こうにかすんでいた「帰」のひと文字がここにきて少しづつ見え始めてきたようですね。帰島への希望をつなぐ昨年のビッグニュースをもう一度振り返ってみましょう。

伝言板

配分金はあなたの口座に振り込みます
二月十二日（水）
三月十一日（火）
四月十日（木）

平成15年 1月10日発行



広場



投稿歓迎

皆様のご意見やお便りをお待ちしています。詩歌やエッセイなど大歓迎、ご投稿下さい。

三宅村シルバー ホームページ・アドレス
<http://www.sjc.ne.jp/miyake/index.htm>
 E-mail) =miyakesc@tokyosilver.or.jp

昨年十月、三宅村立中学校二年生の平川友梨さんは、都議会で開かれた「中学生と都議会議員との懇談会」に招かれ、意見発表をされました。友梨さんは、年をとっても仕事をしている人が生き生きしている様子を見て、避難生活をおくるお年寄りを例にあげながら「高齢者が住みやすい街づくり」を提言しました。

十四歳の鋭い感性が、シルバー人材センターの基本理念を見事にとらえています。また、全国屈指の高齢人口を抱える三宅村への示唆に富んだ提言とも云えましょう。「お年寄りが元気で生き生きしている島」・・・そんな三宅島であって欲しい。以下「三宅村立中学校だより」から転載させていただきます。

高齢者が住みやすい街づくり

三宅村立中学校 2年 平川友梨

三宅島は二〇〇二年八月十八日大規模な噴火がありました。はじめは噴火を経験した人はもちろんのこと、すでに経験された方々もこの大規模な噴火には驚きを隠さずにはいられていませんでした。その後、各地で避難をはじめた。この避難生活をとおして私が感じたのは「高齢者が住みやすい街づくり」が必要だということでした。それも体の弱ったお年寄りに優しいバリアフリーの街づくりだけでなくお年寄りが生き生きと暮らせる街づくりが大切だと思えました。

なぜかというところを考えたかというときは畑の作業をしていただけで東京に避難して職を失ってしまつて何もやる暇がなくて体の筋肉が老化してしまつた」という話を聞いたことがあります。三宅島の人口は約三六〇〇人。そのうち三分の一は六十歳以上の高齢者です。

働いている人は元気そうですが、働いていない人はさみしそうです。年をとっても仕事を生きがいに働いている人は生き生きとしています。私たちが持っている経験と知恵があります。お年寄りが働ける場所を都内にたくさんつくれば、お年寄りが元気になるだけでなく、私たちも農業の知識や技術を教えてもらうことができそうです。

広い農地のない都会でも、屋上にビニールハウスを作つて水耕栽培ができると思います。お年寄りに生きがいをもつてもらい、お年寄りのパワーを社会に生かすような街づくりを進めていってください。

と②環境、生活基盤の整備に関すること③行政機能の確保に関すること④その他必要な事項とされている。

また、検討会は三宅村の自治会や団体など関係する機関の代表二十六人で構成する。

★クリーンハウス工事順調に 短期滞在可能に

村は、住民の短期滞在型一時帰島に備えて三宅中学校グラウンド横にクリーンハウスの建設工事を急ピッチで進めています。避難棟(3階建て)二棟と共用棟などの完成はこの三月末。四月以降は島民三〇二人の宿泊が可能となります。

★三宅島寄港便就航 一月から毎週三便

「東京―八丈島」便の三宅島寄港が決まり、二年三ヶ月ぶりの定期便運航で島へのアクセスは大きく前進しました。

一月から三月までの運航計画は、毎週月・水・金曜日午後十時二十分竹芝発、火・木・土曜日午後二時二十分三宅島発となつていきます。しかし、一時帰島に利用するのはこのうち水・金曜日竹芝発、翌日の折り返し便のみとなつていきます。尚、乗船できるのは、島民及び災害対策関係者で、それを証明するものを持つてくる人に限られます。島民の安全を確保するためには、まだ越えなければならぬ障害がいくつもあることでし

月	区分	受託件数	就業延日人員	契約金額			計
				配分金	材料費	事務費	
11	公共	8	1,337	8,348,400	745,678	752,820	9,846,898
	民間	2	67	469,000	0	0	469,000
	計	10	1,404	8,817,400	745,678	752,820	10,315,898
累計	公共	57	9,164	54,510,900	4,256,373	4,841,265	63,608,538
	民間	15	505	3,327,660	0	2,430	3,330,090
	合計	72	9,669	57,838,560	4,256,373	4,843,695	66,938,628

う。だが、その一つ一つを乗り越え、帰島への条件整備が着実に果敢に展開されているのです。今年の漢字に「島」が選ばれ、もつといいですね。

★支払証明書送付

☆確定申告をしましょう

この一年間に支払われた配分金は、雑所得となり確定申告が必須です。申告のための「支払証明書」を近日中に送りますので紛失しないよう大切に保管してください。

詳しくは、お近くの税務署又は芝税務署(Tel:03-3455-0551)にお問合せください。